

ゼロカーボン・キャンパスWG

概要

大学は、地域社会においてカーボン・ニュートラルの取組を主導する立場として、また、脱炭素技術等の社会実装に係る実験の場（テストベッド）ともなり、その取組を広く地域等に展開することができる立場からも、率先して大学キャンパスのゼロカーボン化に係る取組を進める必要がある。このような観点から、国内外の先進的な大学等の知見の共有や、本分野の国際的な枠組みへの参画等を通じて、各大学の取組を推進し、その成果を積極的に発信する。

また、大学は、教育研究活動や社会貢献活動を通じて地域・国・世界のカーボン・ニュートラルへの貢献を行う特有の役割と性質を持つことから、大学の貢献の在り方の多様性への配慮とともに、これを踏まえたゼロカーボン化への取組に係る評価手法の確立が必要であり、これらの議論や手法の共有等も併せて行っていく。

ミッション

- 2050年までの大学キャンパスのゼロカーボン化を目指した取組の加速のため、2025年までのできるだけ早期にワーキンググループの全参加大学においてこれに向けた方針やロードマップ等を策定し、順次取組を推進できるよう、先進的な取組事例や研究成果等の必要な知見を展開する。

活動の方向性

- 2022年までに、キャンパスのゼロカーボン化に資する、大学の形態や特性（※）を踏まえた先進的なモデルの構築に向けた方向性を示すとともに、モデル構築に係る取組の実践を通じた好事例や課題、具体的手法等について共有、発信する。
また、ワーキンググループの検討を踏まえ、2025年までに、コアリションの全参加大学が方針やロードマップ等を策定し、順次取組の推進を目指す。
（※）単科大学、総合大学、複数のキャンパス、附属病院併設など
- キャンパスのゼロカーボン化に係る最先端の取組や研究成果の共有、議論等を行う場を創設する。この際、国内外の大学ネットワークとの連携を推進し、幅広く知見を収集・共有するとともに、国等のカーボンニュートラルに係る動向等に係る情報についても共有する。

【共有が期待される知見の例】

- ・現状把握、排出量の測定手法や評価指標を含め、ロードマップ等の策定に役立つ知見
- ・大学の教育研究活動等との両立
- ・地域を巻き込む取組や産学官民連携の在り方
- ・既存技術のみではない革新的技術に係る研究成果
- ・施設、研究設備、運用等における省エネ手法

【既存の大学ネットワークの例】 サステイナブルキャンパス協議会（CAS-Net JAPAN）、自然エネルギー大学リーグなど

- Race to Zeroなどの国際的枠組みへの参画などについて情報展開し、取組を推進する。